

人権啓発センター ヒューレ おおいた 2024



フェイク
動画

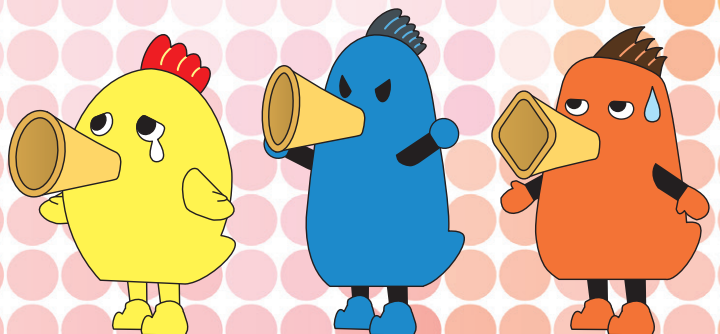
悪意ある
うわさ話

誹謗中傷などの
差別的書き込み

ゴシップ
ネタ

顧客データ等
の個人情報

インターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及により、手軽に情報を収集・発信できるようになりましたが、一方で、プライバシーの侵害、誹謗中傷、デマの配信・拡散、個人情報の流出などの人権侵害が問題となっています。



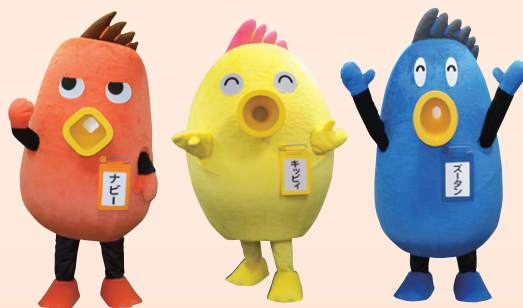
おおいた市人権イメージキャラクター「キズナース」

1 設置目的

人権啓発センター（ヒューレおおいた）は、基本的人権尊重の精神に基づき、同和問題（部落差別）をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて人権教育・啓発の推進及び人権に関する情報の収集・提供や市民の交流を図るとともに、相談・支援業務を行うことにより、市民一人ひとりが互いに人権を尊重し合い共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現に寄与することを目的とする。

2 設置の経緯

- 各種団体から「人権教育・啓発センター」設置の要望が出される。
- 2006年（平成18年）10月30日
大分市都市計画マスタープランにおいて、「駅南・情報文化新都心」の形成が位置づけられる中、大分市複合文化交流施設基本構想策定委員会（外部委員会）が設置され、複合文化交流施設についての検討が始まる。
- 2008年（平成20年）6月
（仮称）大分市総合社会福祉センター設置懇話会から、同センター内に大分市が追加提案した「人権啓発センター」の設置について、その必要があるとの報告書が提出される。
また、本報告書において、新たな総合社会福祉センターの設置場所は、市が建設を計画している駅南の複合文化交流施設内とされる。
- 2008年（平成20年）8月
上記報告書を受け、大分市複合文化交流施設事業における公共機能（案）を修正し、以降、「おおいた都心まちづくり計画」策定庁内検討委員会において、「人権啓発センター」の設置について協議が始まる。
- 2009年（平成21年）12月
「大分市複合文化交流施設整備事業推進チーム」が発足し、施設・設備面や運営方法についての具体的な協議が始まる。
- 2011年（平成23年）12月
平成23年第4回定例市議会で、「人権啓発センター」を含む「ホルトホール大分条例」が制定される。
- 2013年（平成25年）4月1日
「人権啓発センター開設準備室」が設置される。
- 2013年（平成25年）7月20日
ホルトホール大分1階に、「人権啓発センター」が開設される。



おおいた市 人権イメージキャラクター
「キズナーズ」

3 施設の概要

- 施設名称 ▶ 人権啓発センター（愛称：ヒューレ おおいた）
- 所在地 ▶ 大分市金池南一丁目5番1号 J:COM ホルトホール大分1階
- 施設内容 ▶ 展示コーナー、図書・DVD等閲覧コーナー、相談室、福祉総合ミーティングルーム
- 延べ床面積 ▶ 283.16㎡
- 開館時間 ▶ 午前9時～午後6時
- 休館日 ▶ 第2・4月曜日（ただし、その日が休日に当たる場合は、その後の休日以外の日）
年末年始（12月28日から1月3日）

4 組織機構図

福祉保健部

人権・同和対策課

旭町文化センター

人権啓発センター
(ヒューレおおいた)

<愛称「ヒューレおおいた」の由来>

「人権啓発」の英語表記
「human rights enlightenment」の
頭文字「hu」、「r」、「e」を合わせた造語
「hure(ヒューレ)」から愛称を
「ヒューレおおいた」とした。

<職員体制> 2024年(令和6年)3月31日現在

職員数 8人

一般職員	3人
再任用職員	2人
会計年度職員	3人



5 機能及び事業

4つの機能

教育・啓発推進機能

あらゆる差別の解消と市民の人権意識の高揚を図り、人権尊重社会を実現するため、市民に密着した効果的な教育・啓発を推進する。

- 講座、講演会
- 展示事業（常設展示、特別展示）
- 講師紹介

交流・連携機能

人権に関する自主的な活動や学習を支援し、各種団体や関係機関との交流・連携を促進する。

- 学校・団体の受入
- 人権関係団体の支援・交流

情報収集・提供機能

市民の人権意識と感性を高めることをねらいとし、人権に関するタイムリーな情報提供等を行う。

- 人権に関する情報の収集、提供
- 図書・DVDの貸出
- 広報事業
(センターだより・パンフレット・啓発資料等の作成)

相談・支援機能

人権に関する問題の解決と日常生活における人権救済に向けた相談体制等の充実を図る。

- 人権問題に関する相談
- 人権擁護委員による相談

6 館内の概要

(1) 展示コーナー

人権啓発パネルや各種資料を常設展示。およそ1か月ごとにテーマを変えて、特別展示も行う。

①常設展示

同和問題（部落差別）をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者などのあらゆる人権問題及び大分市の取組についての人権啓発パネルを展示。



常設展示「人権啓発パネル」

②特別展示

およそ1か月ごとにテーマを変えて、パネル等を展示する。



「日常の中にある部落差別 "マイクロアグレッション" ってなに？」
パネル展
(1月5日～1月31日)

「岩手 この空の下、明日への道を探して」写真パネル展
(3月1日～3月29日)



(2) 図書・DVD等閲覧・視聴・情報検索コーナー

人権に関する図書・DVDなどの閲覧や貸出しを行う。
貸出しは、図書3冊、DVD2本まで。貸出期間は15日以内。(貸出券の登録申請が必要。)

<所蔵数>

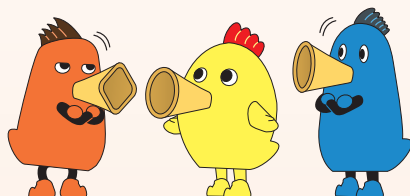
図書	783冊
DVD	113枚
人権に関するDVDの視聴、 パソコンによる情報検索ができる。	
DVDモニター	2台
パソコン	1台



図書・DVD等閲覧コーナー

(3) 相談室

人権に関する相談に対応。毎月第1水曜日（午前10時から午後3時）は、人権擁護委員による相談も行う。なお、開館日の午前9時から午後5時までは職員による相談も行う。



相談室

(4) 福祉総合ミーティングルーム

人権啓発に関する講座や研修会等で利用できる。

〈使用例〉

- ヒューレおおいた主催の研修会
- 小・中学校及び義務教育学校児童生徒の人権・同和教育
- 地区人権教育(尊重)推進協議会
- 大分市人権・同和教育推進連絡協議会各部会
- 教職員の人権・同和教育研修会

長机 …… 18脚	プロジェクター …… 1台
椅子 …… 55脚	スクリーン …… 1台
演台 …… 1台	ホワイトボード …… 1台



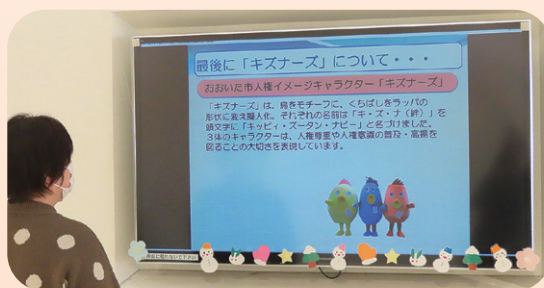
福祉総合ミーティングルーム

(5) 啓発モニター

65インチのモニターを北側廊下壁面に設置し啓発DVD等を上映。

＜内容例＞

- ヒューレおおいた紹介
- 特別展示の紹介
- おおいた人権フェスティバル記録DVD
- 旭町文化センター「旭ふれあい祭～アーチ～」



啓発モニター（65インチ）

(6) 人権啓発大型ポスター掲示板等

○4mポスター掲示板、2mポスター掲示板（2箇所）及び啓発資料の展示

人権尊重社会の実現に向け、市民の人権意識の普及・高揚を図るため、同和問題（部落差別）をはじめとするあらゆる人権問題をテーマにした大分市作成のポスター及び啓発資料の掲示。



4mポスター

7 事業の概要 <2023年度（令和5年度）の実績>

（1）教育・啓発推進機能

①講座、講演会

○リーダー養成講座 「にんげんセミナー」

地域や企業、行政等において、人権啓発のリーダーを養成する講座を年10回開催する。

講師 多田 公一氏、秦 政博氏、上川 多実氏、奥 結香氏、高橋 秀徳氏、川邊 純一郎氏

受講者数 35人（連続受講）

回	実施日	内 容 ・ 講 師
第1回	8月 3日(木)	「『薫習』を見直し、一人ひとりが豊かに生きる」 多田 公一 氏
第2回	8月17日(木)	「差別解消をめざした教育」 高橋 秀徳 氏
第3回	8月31日(木)	「日常の部落差別～差別をなくすのに必要なことって?～」 上川 多実 氏
第4回	9月 7日(木)	「差別から見た日本の歴史1」 秦 政博 氏
第5回	9月21日(木)	「差別から見た日本の歴史2」 秦 政博 氏
第6回	10月 5日(木)	「多様な性について知ろう～ひとりぼっちのいない地域を～」 奥 結香 氏
第7回	10月19日(木)	「同和問題解決にむけて」 多田 公一 氏
第8回	11月 2日(木)	「差別を温存・助長する考え方に向き合う」 川邊 純一郎 氏
第9回	11月16日(木)	「差別から見た日本の歴史3」 秦 政博 氏
第10回	11月30日(木)	「歩んできた道 これからの道」 多田 公一 氏



第1回講座



第3回講座



第10回講座(終了式の様子)

<これまで受講された企業・団体> (敬称略 掲載は順不同)

日本郵便株式会社大分中央郵便局
大分県農業協同組合中西部事業部
九州旅客鉄道株式会社大分支社
西日本電信電話株式会社大分支店
大分バス株式会社
大分交通株式会社
株式会社トキハ
日本製鉄株式会社大分製鉄所
九州電力株式会社大分支社
大分合同新聞社
大分キヤノン株式会社
JXTGエネルギー(株)大分製油所
株式会社大分銀行
日本生命保険相互会社
㈱三井E&Sマシナリー大分工場
TOTOアクアテクノ株式会社大分工場
大分信用金庫
大分県信用組合
日本通運株式会社大分支店
太陽生命保険株式会社大分支社
株式会社オーイーシー
九州労働金庫大分県本部
大分市タクシー協会
株式会社別大興産
㈱JR大分シティ
大分市管工事協同組合
株式会社豊和銀行

明治安田生命保険㈱大分支社
株式会社太田旗店
大分市職員労働組合
ヴェオリア・ジェネッツ株式会社
マイタウンサービス㈱
株式会社日本水泳振興会
株式会社ダイプロ
株式会社九電工大分支店
大分リバースタジアム共同企業体
大分県住宅供給公社
コンパルホール共同事業体
ホルトホール大分みらい共同事業体
アートプラザ共同事業体
平和市民公園共同事業体
大分市情報学習センター
(一財)大分市高崎山管理公社
関崎海星館
社会福祉法人大分市福祉会
春日町小学校PTA
大道小学校PTA
西の台小学校PTA
南大分小学校PTA
城南小学校PTA
豊府小学校PTA
植田小学校PTA
宗方小学校PTA
金池小学校ひしみの会

上野ヶ丘中学校PTA
王子中学校PTA
大分西中学校PTA
南大分中学校PTA
城南中学校PTA
明野中学校PTA
植田中学校PTA
植田西中学校PTA
碩田学園PTA
大在小学校PTA
南大分地区人権教育推進協議会
大在地区人権教育推進協議会
大南地区人権尊重推進協議会
野津原地区人権教育推進協議会
坂ノ市地区人権教育推進協議会
佐賀関地区人権教育推進協議会
西部地区人権教育推進協議会
城東原川地区人権教育推進協議会
南部地区人権教育推進協議会
鶴崎地区人権教育推進協議会
明野地区人権尊重推進協議会
大分中央地区人権尊重推進協議会
植田地区人権尊重推進協議会
大分人権擁護委員協議会
大分市地域婦人団体連合会

○「にんげん劇2023」

市内の中学生・高校生等を対象に、演劇を通じて人権の大切さについて考えてもらう講演会を実施する。



朗読劇「蝉なきやまず ～大分の空襲より～」
出演 おおいた演劇の会



②常設展示

同和問題（部落差別）をはじめとするあらゆる人権問題及び大分市の取組等をパネル化し、センター内の壁面に常設展示するとともに、貸出等も行なっている。



③特別展示

同和問題（部落差別）をはじめとするあらゆる人権問題について学習する契機の提供を目的として、年間計画の中でテーマを設定し、パネル等の展示会を実施する。

特別展（期間）	概要
Light It Up Blue@「100年の樹」2023「わかり合う」をテーマにしたアート作品展 （4月1日～4月25日）	Light It Up Blue（ライト・イット・アップ・ブルー）は、全世界の人々に自閉症・発達障がいについて理解してもらおう取組であり、世界自閉症啓発デーや発達障害啓発週間に合わせ、自閉症をはじめとする発達障がい者等が作成したパネルやアート作品を展示。
「 えぐち 江口いと」人権の詩 パネル展 （4月26日～5月31日）	さまざまな人々と出会い、不条理な差別と闘いながら、乏しくともわけあう「博愛の心」や「まことの心」を胸に生きた江口いとさん。人間として、母としての強さと愛情の深さを詩を通して感じていただくパネル展。
「ちょっといい話」パネル展 （6月1日～6月30日）	身のまわりで経験した心温まる出来事や、心に残る「ちょっといい話」をパネルにした作品展。
なかむら てつ 中村 哲 写真展 ーアフガニスタン36年の軌跡ー （7月1日～7月29日）	アフガニスタンで人道支援に尽くした中村哲氏（享年73歳）の活動の功績を紹介した写真展。
「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」展 （7月30日～8月31日）	戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、平和の尊さ、命の大切さを伝えるとともに、復興の歩みの写真や絵画のパネル展示。
かねこ 「金子みすゞの世界」展 「暮らしの中の人権」パネル展 （9月1日～9月29日）	大正末期から昭和初期にかけて優れた作品を遺した、金子みすゞの遺稿集の一部を展示したパネル展。 併せて、日々の生活の中で周囲にも気を配り、身近なところ、できることから少しずつ、相手の立場に立って思いやりの気持ちなど「暮らしの中の人権」をパネルにした作品展。
「ボクラとセカイをつなぐモノ」展 （9月30日～10月29日）	不登校を経験したりさまざまな障がいがあったりしても、自己表現活動をワクワクしながら取り組んでいる方々のアート作品展。
「自分らしく生きるために ～性障がいの人たちの人権、 LGBT（性的マイノリティ） の方が抱える社会課題～」 啓発パネル展 （10月30日～11月30日）	性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めることを目的とした啓発パネル展。
「インターネットによる人権侵害」 パネル展 （12月1日～12月26日）	他人への誹謗中傷や侮辱、プライバシーの侵害、SNSでのいじめ、特定の民族や国籍の人々を排斥する（いわゆるヘイトスピーチ）、部落差別（同和問題）に関する差別を助長する投稿など、インターネット等による人権侵害への啓発のためのパネル展示。
「日常の中にある部落差別 “マイクロアグレッション”ってなに？」 パネル展 （1月5日～1月31日）	部落出身者が日常的に受けている差別的な言動や状況“マイクロアグレッション”に焦点をあてたパネル展。 ※マイクロアグレッションとは、ありふれた日常の中にある、ちょっとした言葉や行動の状況であり、意図の有無にかかわらず特定の人や集団を標的とし、人種、ジェンダー、性的指向、宗教を軽視したり侮辱したりするような悪意ある否定的な表現のことである。
「東日本大震災」写真パネル展 （2月1日～2月29日）	2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災から13年。震災当時の様子を記録した写真パネルを展示。
フォトジャーナリストが見た東日本大震災「岩手 この空の下、明日への道を探して」写真パネル展 （3月1日～3月30日）	NGO国境なき子どもたち（Knk）とともに被災地域に通い、経験を共有したフォトジャーナリスト渋谷敦志さん、安田桑津紀さん、佐藤慧さんたちが、岩手の地で明日へと続く長い道のりを歩み始めた人々を写した写真展。



Light It Up Blue@「100年の樹」2023
「わかり合う」をテーマにしたアート作品展
(4月1日～4月25日)



「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」展 (7月30日～8月31日)



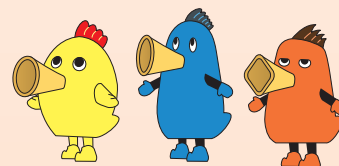
「インターネットによる人権侵害」パネル展
(12月1日～12月26日)



「日常の中にある部落差別 “マイクロアグレッション”ってなに？」パネル展
(1月5日～1月31日)

④講師紹介

地域をはじめ企業や行政、学校等が積極的に人権・同和問題に関する研修会等に取り組むことができるように講師の紹介を行う。



⑤夏休み映画上映会

小・中学校及び義務教育学校の夏季休業期間にアニメ映画「はだしのゲン」などを上映する。

⑥夏休み障がい者スポーツ体験

障がい者スポーツ
「ボッチャ」の体験。



⑦夏休み人権体験学習、人権教室

小・中学校及び義務教育学校の夏季休業期間に人権に関する体験学習事業を行う。(教職員等の研修も含む)
※学習内容は、高齢者・妊婦擬似体験、車いす体験、アイマスク体験など

(2) 交流・連携機能

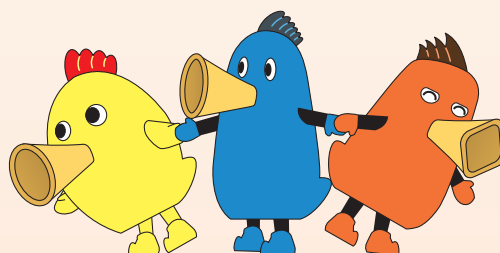
①学校・団体の受入

学校等の人権・同和教育や各種団体の人権・同和問題研修を支援するため、小・中学校及び義務教育学校児童生徒対象の講話や体験学習、大分市作成のDVD等を活用した研修を実施する。

○小・中学校及び義務教育学校の受入

学習項目	内 容
講 話	人権・同和問題についての講話「心のバリアフリー」、「わたしも大切なあなたも大切」など
DVD視聴	人権・同和問題についてのDVD上映「人権ノススメ」 など
パネル学習	人権・同和問題についての常設展示、特別展示のパネル見学
高齢者・妊婦擬似体験	高齢者・妊婦擬似体験グッズを装着した擬似体験活動
アイマスク体験	アイマスク、白杖を使用した擬似体験活動
バリアフリー設備見学	J:COM ホルトホール大分のバリアフリー設備、ユニバーサルデザイン設備の見学

	児童生徒数
市内小学校・義務教育学校	2, 514人
市 外 小 学 校 (由布市)	39人
市内中学校・義務教育学校	4, 439人
高 等 学 校	6人
合 計	6, 998人



DVD視聴



妊婦擬似体験



高齢者擬似体験

○団体の受入

受入団体数・・・35団体 510人

②人権関係団体の支援・交流

団体相互の連携や交流を図ることを目的に、各人権関係団体の活動資料などを掲示する場の提供を行うとともに、団体を対象とした研修会を実施する。



地区人権協広報紙の展示

(3) 情報収集・提供機能

①人権に関する情報の収集、提供

国内外の様々な人権に関する情報や資料を収集し、センター内への掲示等により情報発信する。

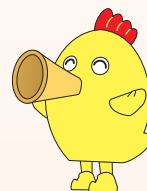
②図書・DVDの貸出

センターが所蔵する人権に関する図書やDVDを市民・団体・企業等に貸し出す。

③広報事業

人権に関する情報やセンター事業の紹介等を掲載した定期広報紙を発行する。
また、センターのパンフレットや各種の啓発資料等を作成する。

- 広報紙「ヒューレbond(ボンド)」発行 市内全戸配布 (年1回)
- 小・中学校及び義務教育学校用広報紙「ヒューレ通信」発行
小・中学校及び義務教育学校全学級配布 (年1回)



「ヒューレbond」



「ヒューレ通信」



(4) 相談・支援機能

人権相談

人権に関する総合的な相談窓口として、面談等による人権相談に応じる。
また、人権擁護委員による相談を毎月第1水曜日に実施する。

相談者数(件数) 21人(19件)



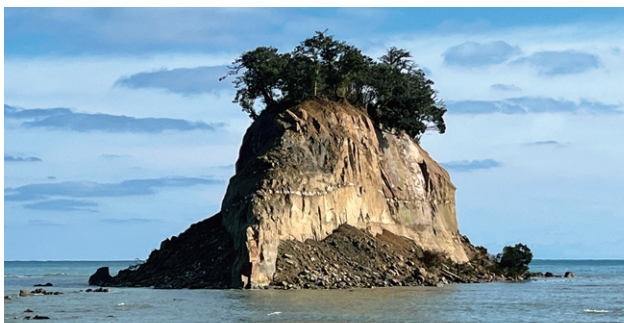
8 年間利用者数

年 度	利用者数
2023年度(令和5年度)	37,320人
2022年度(令和4年度)	21,318人
2021年度(令和3年度)	19,664人
2020年度(令和2年度)	16,154人※
2019年度(令和元年度)	47,040人※
2018年度(平成30年度)	48,652人
2017年度(平成29年度)	49,471人
2016年度(平成28年度)	46,518人
2015年度(平成27年度)	50,933人
2014年度(平成26年度)	54,648人
2013年度(平成25年度)	40,769人※

※2020年(令和2年)3月21日～5月17日までは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館

※2013年度(平成25年度)は7月20日(開館)～3月31日





「令和6年能登半島地震」の様子

災害時の人権侵害

2024年（令和6年）1月1日の能登半島地震では、多くの尊い命が奪われました。

2011年（平成23年）3月11日の東日本大震災では、大津波が発生し東北地方を中心に、多くの尊い命も奪われました。

2016年（平成28年）4月14日の熊本地震においても、各所で甚大な被害を受け、尊い命が奪われました。

大規模な災害は、多くの命を危険にさらし、人々の暮らしを奪う理不尽な苦しみを強いるものです。こうした事態そのものが被災者の人権を損なっているのだということを忘れてはなりません。

ときとして、災害時には、情報不足やデマなどによる人権侵害が生じることがあります。

東日本大震災では、福島原子力発電所事故による被災地の農業・水産業・酪農業が受けた風評被害、避難先での被災者に対する心無い対応がありました。原発事故のあった福島県からの被災者がホテルで宿泊を拒否されたりガソリンの給油を拒否されたりといった事案の他、小学生が避難先の小学校でいじめを受けるなどの事案が起こりました。これらは決して見過ごすことのできない問題です。

災害は、いつどこで起きるかわかりません。同じ過ちを繰り返さないためにも、わたしたち一人ひとりが正しい知識を持ち、被災者の気持ちに寄り添うことが大切です。改めて、「災害と人権」について考えてみましょう。

おおいた市

人権イメージキャラクター

「キズナーズ」



「キズナーズ」は、鳥をモチーフに、くちばしをラッパの形状に変え擬人化。それぞれの名前は「キ・ズ・ナ（絆）」を頭文字に「キッピー・ズタン・ナビー」と名づけました。3体のキャラクターは、人権尊重や人権意識の普及・高揚を図ることの大切さを表現しています。

人権啓発センター

ヒューレおおいた

〒870-0839 大分市金池南一丁目5番1号 J:COM ホルトホール大分1階
電話 097-576-7593 FAX 097-544-5708

○開館時間 午前9時～午後6時

○休館日 毎月第2・4月曜日

（ただし、その日が休日に当たる場合は、その後の休日以外の日）
年末年始（12月28日～1月3日）